

科目ナンバー： BC3022

授業コード： 2230300200

講義科目名称： 老年看護学Ⅱ

英文科目名称： Gerontological Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
小長谷百絵、◎原等子、東條紀子、青山拓夢			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間				
	【担当教員】					
	【氏名】 ◎原 等子 小長谷 百絵 cn. ac. jp 東條 紀子 青山 拓夢 cn. ac. jp 実務経験のある教員が担当します	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【研究室】 303 213 308 共同研究室4	【メールアドレス】 naohara@niigata-cn. ac. jp konagaya@niigata- toujou@niigata-cn. ac. jp taaoyama@niigata-		
	【本学の科目区分】 専門科目					
	【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程					
	【D P 1】 ○	【D P 2】 ◎	【D P 3】 ○	【D P 4】	【D P 5】	【D P 6】
				【D P 7】		

到達目標	1. 高齢者の心身に生じる加齢変化の特徴と健康障害との関連について説明できる 2. 高齢者の健康障害の臨床的特徴（医学、薬理、社会的特徴など）を説明できる 3. 高齢者の加齢変化や健康障害による日常生活への影響、その評価方法を説明できる 4. 高齢者の生活障害、健康障害に対する看護について、個別性を踏まえた自立支援、本人のニーズ（希望）に即した支援で思考することを説明できる 4. 認知症をもつ高齢者、急性期ならびに終末期にある高齢者に対する看護の特徴、必要とされることを説明できる 5. 高齢社会における高齢者のライフサイクルや世帯の特徴を踏まえ、家族への支援の必要について説明できる 6. 高齢者ケアにおけるパーソン・センタード・ケア、ストレングス理論や看護理論を背景とした自立支援およびニーズ支援の考え方を説明できる 7. 病院や施設などにおける高齢者の環境への適応の困難さを理解し、高齢者の強みを活かしたケア方法を検討できる 8. 高齢者への看護として期待されることを説明できる
授業概要	老年看護学Ⅰでの「高齢者と高齢社会に対する理解」を踏まえ、加齢や疾病罹患による高齢者の心身社会的変化と変わらず維持し成熟していくものがあることを理解したうえで、老年期特有の生活障害、健康障害に対して、エンパワメント、ストレングス、ICFなどの理論をもとに、高齢者への看護の方法を考えていきます。特に、高齢者が虚弱になっていく部分を、様々な経験と工夫で強化している部分を尊重できる視点を持ち、高齢者の尊厳を支える看護職としてのあり方を考えていきます。 また、高齢者とその家族や社会が経験する高齢社会において、様々な困難が生じますが、それに対応するための地域づくりや環境（法律や制度を含む）整備についても考えていきます。 教授陣の実践、研究経験および臨地や臨床など第一線で活躍する多職種のゲストスピーカーによる講義を交えて、ともに高齢者の自立や尊厳を目指したケアのあり方を考えていきます。
授業計画	1 10/1 Ⅱ 加齢変化 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者の主な症状および疾患管理① 学修内容：高齢者の特徴 高齢者看護が目指すもの 加齢変化と疾病罹患の特徴 事前学修：老年看護学Ⅰや形態機能学での学修内容を復習しつつ、教科書の第1章Dを確認しておきましょう。 事後学修：高齢者の疾病罹患の特徴を踏まえた看護の必要性について考えてみましょう。 備考：日程については、講義初回時にゲストスピーカーとの調整を踏まえて提示します。左記提示の日時が変更になる可能性もあります。 担当：原、小長谷、東條、青山 2 10/8 Ⅱ 総合機能評価 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者のフィジカルアセスメント① 学修内容：高齢者の総合機能評価と看護 老年症候群（生活不活発病、ロコモティブシンドローム、サルコペニア） 事前学修：教科書の第4章Aを確認しておきましょう。

		事後学修：厚生統計資料を参考に、高齢者の疾病罹患状況や死因などから、高齢者の健康管理のニーズについて考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山
3	10/15 II	身体各部の変化の特徴とケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者のフィジカルアセスメント② 学修内容：身体各部（皮膚・外皮系、感覚器、循環・呼吸器、消化・吸収、栄養、口腔、排泄機能）の加齢変化、フィジカルアセスメント 事前学修：教科書の第4章Bを確認しておきましょう。 事後学修：身体各部の加齢変化の特徴を踏まえた看護の必要性について考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山
4	10/22 II	皮膚の変化とケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者のフィジカルアセスメント③ 学修内容：高齢者の皮膚の脆弱性のアセスメントと看護 事前学修：スキンケアとスキンテアの違いを調べておいてください。 事後学修：高齢者に対するスキンケアのポイントを整理しておきましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山、ゲスト（老人CNS）
5	10/29 II	コミュニケーションの変化とケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者のフィジカルアセスメント④ 学修内容：失語症・構音障害のある高齢者の看護 事前学修：失語症、構音障害の原因疾患、病態、障害の特徴について整理しておきましょう。 事後学修：高齢者におけるコミュニケーション障害の特徴と、失語症や構音障害のある高齢者の特徴を踏まえ、高齢者との意思疎通方法について考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山、ゲスト（ST）
6	11/5 II	栄養・水分摂取の変化とケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者の生活自立支援① 学修内容：摂食・嚥下障害、口腔機能障害のアセスメントと看護 事前学修：教科書第5章B-2、参考図書ケアプロトコル第3章を確認しておきましょう。 事後学修：高齢者の食にまつわる口腔機能障害や摂食・嚥下障害へのケア方法について整理しましょう。とくに口腔ケア方法、ポジショニング方法、食事介助方法については、演習で学修を深めますので、基本的な技術手順を確認しておきましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山
7	11/12 II	排泄機能の変化とケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者の生活自立支援② 学修内容：排泄機能障害のアセスメントと看護 事前学修：教科書第5章B-5/6、参考図書ケアプロトコル第5-6章を確認しておきましょう。 事後学修：高齢者の排泄にかかわるケア方法について整理しましょう。とくに排尿自立のためのケア方法、おむつ交換方法、排便コントロール方法、トイレ介助方法については、演習で学修を深めますので、基本的な技術手順を確認しておきましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山
8	11/19 II	活動機能の変化とケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者の生活自立支援③ 学修内容：活動耐性低下、運動機能障害のアセスメントと看護 骨粗鬆症、転倒と骨折の予防とケア せん妄ケア 事前学修：教科書第5章B-7/8/9およびC、参考図書ケアプロトコル第2章を確認しておきましょう。 事後学修：高齢者の生活の自立の維持と運動機能の維持・回復をめざしたケアの方法について確認しておきましょう。また、入院や手術などの体調環境変化に伴う高齢者のせん妄へのケア方法を確認しておきましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山、ゲスト（PT）
9	11/26 II	生活の支援 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者の生活自立支援④ 学修内容：高齢者の生活支援、余暇活動、リハビリテーション、アクティビティケア 事前学修：ICFの考え方を復習しておきましょう。人間の生活行動について学習しておきましょう。 事後学修：高齢者の療養生活における自立支援、機能訓練、生活支援について、それぞれの意味合いを確認し、高齢者の生活におけるケアについて考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山、ゲスト（PT）
10	12/3 II	認知症の人と家族への支援 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者と家族への支援① 学習内容：病院・施設・地域における介護家族への支援 認知症の理解と認知症の人への支援（社会への処方含む） 事前学修：教科書第7章、参考図書認知症の人々の看護を確認しておきましょう。どこカレにある学習動画を視聴しましょう。 事後学修：認知症のある高齢者に対する接し方について考えてみましょう。 備考： 担当：原

	11 12/10 II 介護すること家族の思い 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者と家族への支援② 学修内容：介護家族支援，介護の社会化の課題 事前学修：教科書第6章を確認しておきましょう。どこカレにある学習動画を視聴しましょう。 事後学修：家族と高齢者との関係性について、高齢者の支援と家族の支援の相違について考えてみましょう。 備考： 担当：原、ゲスト（当事者） 12 12/17 II 終末期のケア 授業形態：講義 対面 学修課題：高齢者の終末期における看護 学修内容：高齢者終末期の概念と評価，終末期医療と看護のあり方 事前学修：教科書第8章を確認しておきましょう。他教科のエンドオブライフケア、終末期ケアの項目を確認しておきましょう。 事後学修：高齢者と死、死を前にした高齢者と家族のケアの必要性、人生の最終段階を見据えた対話の必要性和困難さ、などについて考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山 13 1/21 II ともに考える高齢者への支援 授業形態：グループワーク 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援④ 学習内容：高齢者の特徴を踏まえ考える高齢者の看護 事前学修：参考図書「旅のことば」「ともに生きる言葉」を確認しておきましょう。 事後学修：高齢者や障害者、認知症の人とともに生きる社会、地域、医療・福祉のあり方について考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山 14 1/21 III ともに考える高齢者への支援 授業形態：グループワーク 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援④ 学習内容：高齢者の特徴を踏まえ考える高齢者の看護 事前学修：参考図書「旅のことば」「ともに生きる言葉」を確認しておきましょう。 事後学修：高齢者や障害者、認知症の人とともに生きる社会、地域、医療・福祉のあり方について考えてみましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山 15 1/21 IV 高齢者看護の実践に向けて 授業形態：グループワークと講義 対面 学修課題：高齢者の生活自立支援⑤ 学修内容：高齢者の特徴を踏まえ考える高齢者の看護 高齢者看護へのレディネス 事前学修：老年看護学ⅠⅡでの学修を振り返り、自身の高齢者観、高齢者ケア観、健康観、死生観について考えてみて下さい。 事後学修：老年看護学演習、実習に備え、高齢者によく見られる疾病（肺炎、脳卒中、心不全、大腿骨頸部骨折、せん妄、うつなど）を整理しておきましょう。また、よく実践する可能性のあるケア技術（口腔機能向上ケア、食事ケア、ポジショニング、おむつ交換、移乗介助、歩行介助、車いす操作など）の基本手順を整理しておきましょう。 備考： 担当：原、小長谷、東條、青山
評価方法、評価基準	到達目標1～8に対し、試験40%、課題・レポート60%により学習目標の到達度の総合評価を行います。課題・レポートについて、各単元ごとに事前事後学習課題を提示し、提出を課し評価に含めます。試験（筆記）：1月15日（木）Ⅱ限（10：40～11：40）
必携図書	水谷信子監修（2021）：最新老年看護学第3版，日本看護協会出版会。（購入済） 亀井 智子編（2024）：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第4版，医学書院。
参考図書・資料等	1) 北川公子ほか（2025）：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第10版，医学書院。 2) 山田律子ほか（編）（2020）：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図第4版，医学書院。 3) 日本老年医学会（編）（2008）：老年医学テキスト改訂第3版，メジカルビュー社。 4) 迫田綾子編著（2023）：誤嚥予防，食事のためのポジショニング POTTプログラム，医学書院。 5) 中島紀恵子編著（2024）：認知症の人びとの看護 第4版，医歯薬出版。 6) 一般社団法人日本高齢者虐待防止学会（2025）：イラストで学ぶ介護現場の虐待防止トレーニングBOOK，中央法規。 7) 伊庭崇他編（2015）：旅のことば 認知症とともにによりよく生きるヒント，丸善出版。 8) 金子智紀他著（2022）：ともに生きることば 高齢者向けホームのケアと場づくりのヒント，他，講義で提示
受講、課題、資料配布等のルール	事前事後学習用ワークシートおよび各回講義のフィードバックの提出と記載内容は、課題（レポート）の評価に含まれます。これらのワークシート等の他にレポート課題を課します。
教員からのメッセージ	基礎実習ではユマニチュードを活用できましたか。患者様や看護スタッフ、多職種とのコミュニケーションからの学びはありましたか。病院に入院する多くの患者様は高齢者が多いですが、高齢者の尊厳を支える看護を実践していくためには、「高齢者の持てる力の観察と可能性を信じ待ち見守ること」が重要です。実習での学びを振り返りつつ、高齢者に対する看護のあり方について教科書や参考書などをもとに調べ、考えてみてください。 事前に自己学習した内容とこの科目での学びを合わせて、高齢者の身体面（人としての生活・くらしの維持、治療効果の促進、疾病障害予防）へのケア、心理的变化へのケア、地域づくりや環境整備など、それぞれにかかわる看護のあり方について考えてみてください。 高齢者ケアの知識整理には他教科との重複が多く、いままでの学習との関連を考えながら学習をすすめていきましょう。そしてその中で高齢者看護の特徴、実践方法や課題を考えていきます。高齢者の機能低下ばかりに捉われず、できていること、可能性、能力やニーズに着目したあきらめない看護を目指して学修していきま

	しょう。
オフィスアワー	全教員 在室時対応可能 メール等で対応可能